

小学生とロボット工作

田辺工業高生が講師

田辺工業高校(田辺市あけぼの)はこのほど、校内で小学生を対象にロボット工作教室を開いた。生徒が講師になって児童に組み立て方を教

え、ものづくりの楽しさを伝えた。ものづくりに関心を持ち、工業高校である同校のことを知ってほしいと開いた。市内の小学生18人とその保護者が参加し、生徒会役員で電気電子科2年生の6人が教えた。作ったのは、相撲をして遊ぶことができる力士のロボット。手でハンドルを回し、発電させて動かす仕組みになっている。

生徒は工作教室に向け、事前にロボットを作り、児童に



説明できるように準備。この日は児童のそばに付いて、ニッパーで細かい部品を切り離したり、モーターの回転数を変える「ギアボックス」を作ったりする作業を教え、難しいところは手伝った。

生徒会長の田中岬君(16)は「子どもたちは真面目に取

り組み、楽しんでいたのでよかった。この体験を今後に生かしてもらい、将来の進路に田辺工業高校を選んでくれたらうれしい」と話した。

芳養小学校6年生の栗川諒人君(11)は「ロボットが好きなので興味を持って参加した。高校生はとっても優しく、分かりやすく説明してくれた」と喜んだ。

工作の前には、情報システム科の西川建一教諭(47)が児童に発電の仕組みについて説明した。

説明書を指して、小学生にロボットの組み立て方を教える生徒(左)＝田辺市あけぼの